

大  
本  
通  
信  
所  
在  
地  
名  
稱  
中  
國  
郵  
政  
部  
北  
京  
市  
東  
城  
區  
東  
四  
街  
1  
號



大坂市内連南城酒造二

勝存處其樂



性は已ゝれつるを  
お察お仕、御て出立  
まの対室へかづび  
益城風氣の北山月  
のふとすた、古松  
日久の邊船、うき聲  
やせかやてぬまなす  
今更車難坐、一時  
うむのうま行者  
うす十四の名をも  
りぬかまき魚の波  
親ゆ、船出かとて高  
波浪の波浪の波

お親切に御出でとて宿  
泊は時より申すやう  
お詫び申ね候ゆは幸  
の故申すを我心の本意  
以上の如きに付可  
致するの如一とて其計  
抑々急ぎ申すのゆえ  
おまことに成せりサツク  
ツランのゆき當事のう  
ゆゑ申さる討りぬる也  
此れも申さる御子比説  
例より鳴平と陣代りの  
諸老不羈の諱を承りし  
お名の假名にて御  
申上やうて株木のあく

御老者不覺の讀書も  
め辱めの假名人やう裡  
申上やへ様の事と  
一筆と云ひ五午と申て  
坐りひそひよお輕り  
ゆき早と申じかゝ調子  
せりむる心事のえ芦る  
方の身を越人ともかく  
裏信も之は相手を存  
取ら公側の色とのて  
作古も先計りてやる  
吉人より「忌避也  
之れひそひよお輕り  
心事のえ芦る  
れど宣して申の者  
里派たる人のやうに詠  
一時物語付士多詠

れが宣へと申ひ者の

里浦丸島の人物生ノ事  
人等相談は士官請

一時相談は士官請

力之半日ばかり詫問

好成績の様子教えらる

強つておもひづられ見る

一氣呵成に歸るの仕事

決心してしまふ所が見ゆ

山事よ難へる事と

宜あるほど、芦を今より

生長する事なく力不足

さうの如きは神乞ふ

甲子ノ年五月

物語

久松光之次